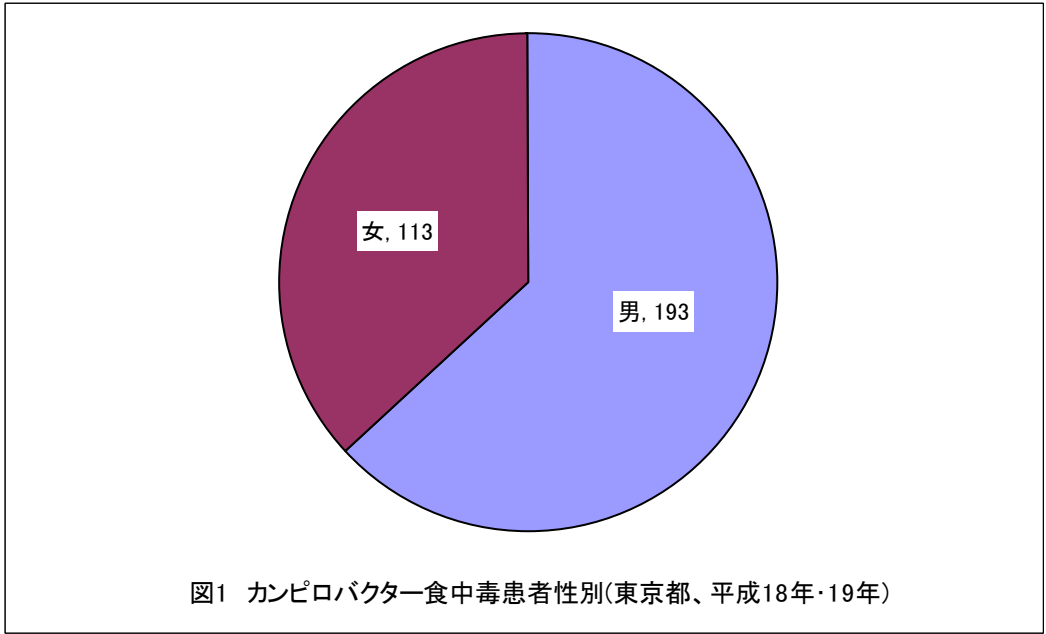


カンピロバクターによる食中毒患者及び原因施設情報(東京都、平成 18 年・19 年)

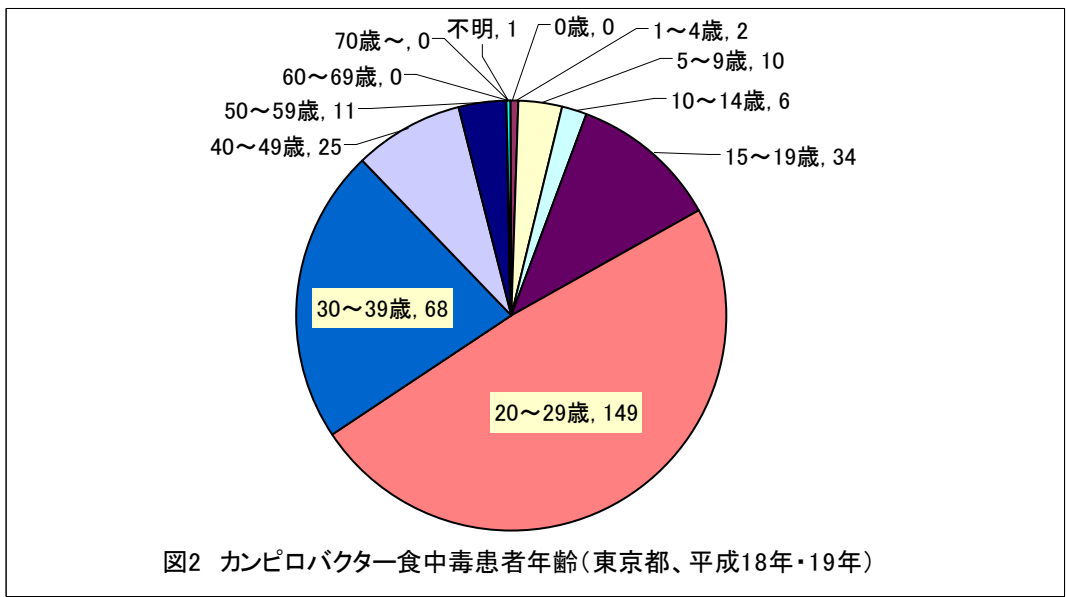
平成 18 年、平成 19 年の東京都におけるカンピロバクター食中毒のうち、患者の年齢を把握できる 47 件について、患者及び原因施設の情報の集計を行った。

1 患者属性

食中毒患者 306 名のうち、男性が 193 名 (63%) であった (図 1)。



年齢別では、20～29歳が 149 名 (49%) と最も多く、次いで 30～39歳が 68 名 (22%) であった (図 2)。



性別年齢別では20～29歳男性が一番多く、98名(32%)であった(図3)。

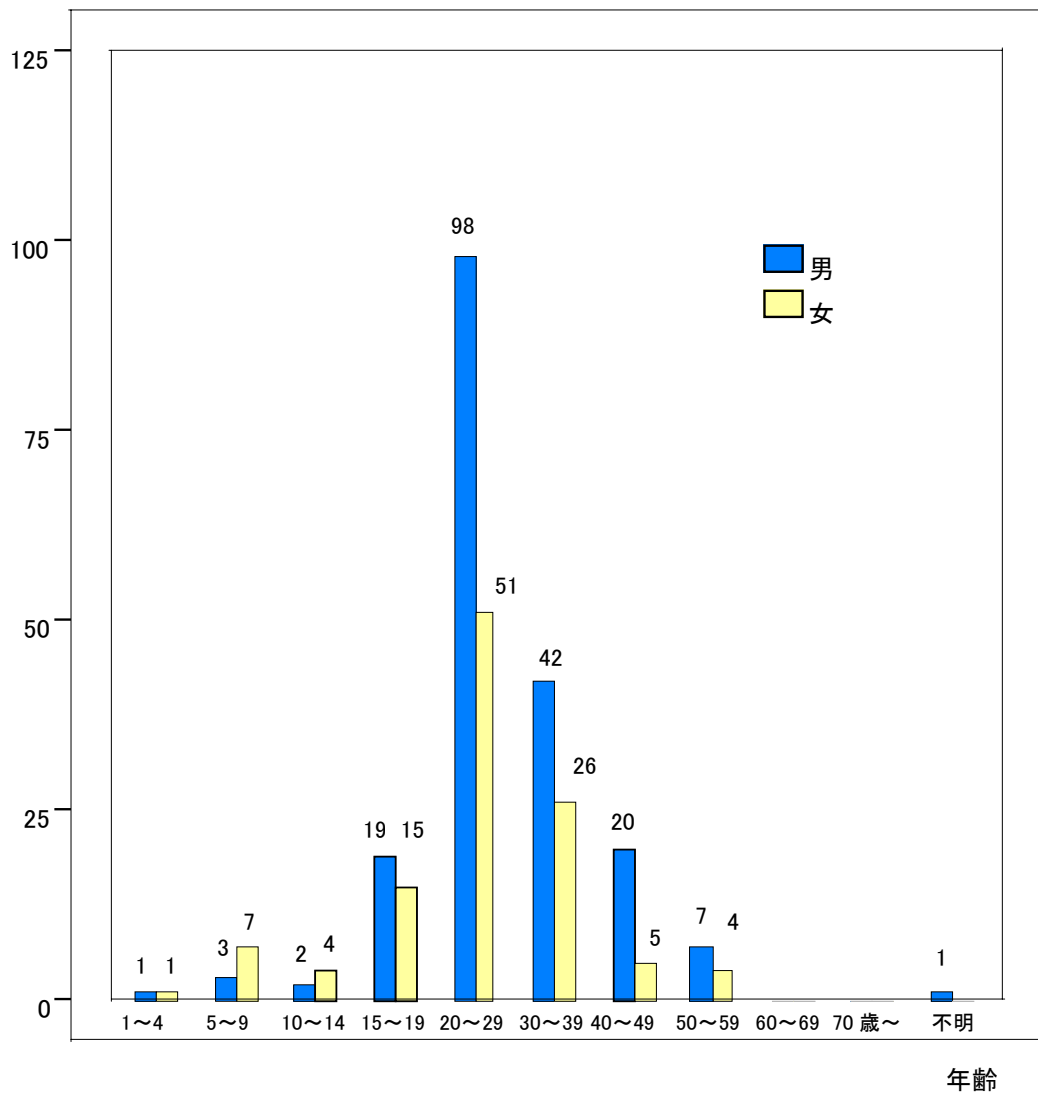
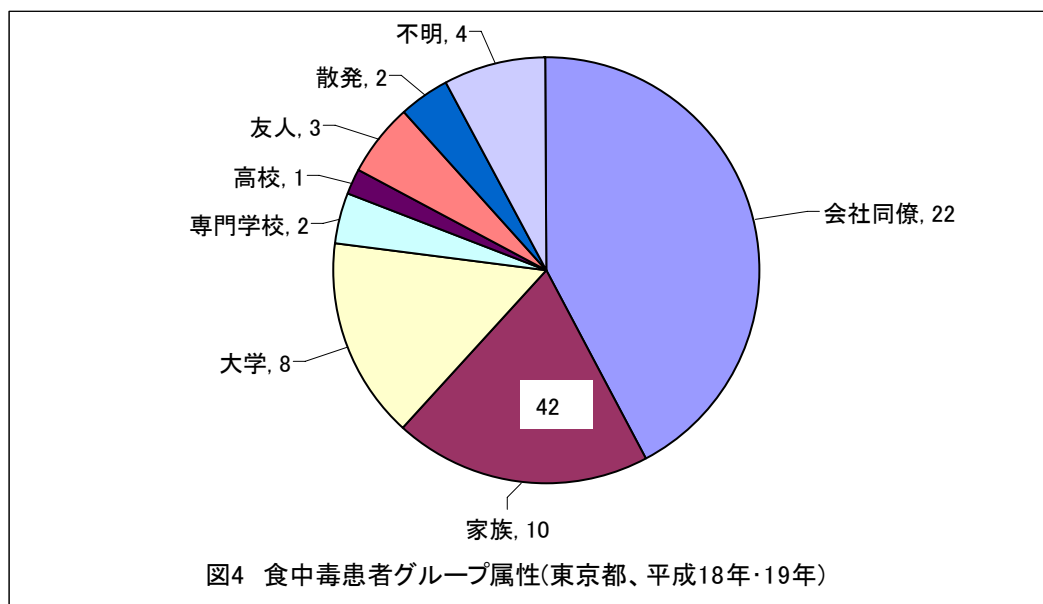


図3 カンピロバクター食中毒患者性別年齢別(東京都、平成18年・19年)

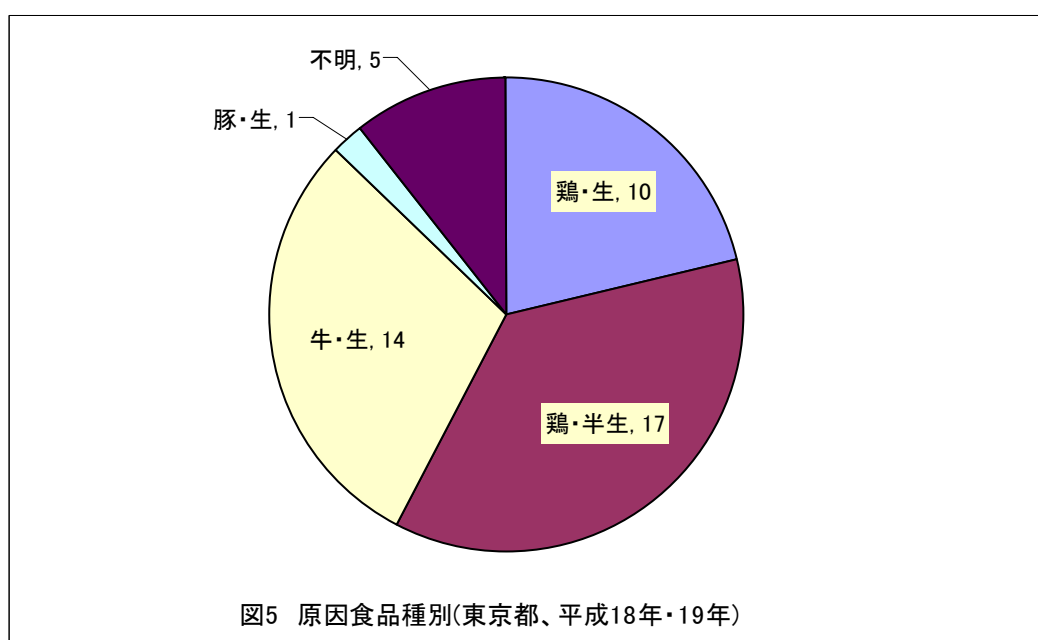
## 2 患者グループ属性

食中毒患者 52 グループ(1 事件で複数のグループがある場合もあり) のグループ属性を集計したところ、会社同僚が 22 グループ(42%)、家族が 10 グループ(19%)、大学・専門学校の友人関係などが 10 グループ(19%)であった(図4)。



## 3 原因食品

食中毒事件 47 件における原因食品の食肉種別及び加熱の有無をみたところ、鶏刺しなど「生の鶏肉」が原因であるのは 10 件(21%)、鶏ササミ湯引きや加熱不十分な焼鳥など「半生の鶏肉」が 17 件(36%)、牛レバ刺しなど「生の牛肉」が 14 件(30%)であった(図5)。



14歳以下の食中毒患者が、食中毒事件に関連して食肉の生食をしているかどうかを集計したところ、18名中11名が生食メニューを喫食していた。喫食場所は居酒屋、焼肉屋、寮（自炊）であった（表1）。

表1 14歳以下の食中毒患者18名の食肉生食メニュー喫食状況

No.	患者性別	年齢	生食メニューの喫食状況
1	男	3	なし
2	女	3	牛レバ刺し
3	男	5	砂肝刺し、鶏レバ刺し
4	女	5	ユッケ
5	男	6	牛レバ刺し、ユッケ
6	女	6	砂肝刺し
7	女	7	なし
8	女	7	牛レバ刺し
9	女	8	ユッケ
10	男	9	牛レバ刺し、ユッケ
11	女	9	なし
12	女	9	ユッケ
13	男	10	なし
14	女	10	なし
15	女	10	なし
16	女	11	なし
17	女	12	半生の焼鳥(ささみ)
18	男	14	豚レバ刺し

#### 4 原因施設

食中毒事件47件の原因施設を提供メニューや屋号をもとに分類したところ、居酒屋が28軒（60%）、焼肉屋が10軒（21%）であった（図6）。

